

令和 6 年 度

健康福祉サービス自己評価結果報告書

報告書の内容

添付書類	添付した書類に○を記入
チェック済評価基準	○
評価基準概評	○
サービス改善計画	○

施設・事業所名：児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ

健康福祉サービス自己評価実施状況報告書

令和7年4月25日

大津市障害福祉課長 あて

(所在地) 大津市富士見台 54-40

(施設・事業所名) 児童発達支援・放課後等

デイサービス ハイタッチ

(代表者職・氏名) 富元 重幸

健康福祉サービス自己評価を、「本県における健康福祉サービス評価システムの推進について」により実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

1 施設・事業所の名称

児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ

2 評価基準およびサービスの種別（該当の記号に○印を付し、サービスの種別を記入）

○評価基準

ア 障害福祉サービス共通評価基準①〔障害者／施設、グループホーム〕

(種別：)

イ 障害福祉サービス共通評価基準②〔障害者（児）／在宅〕

(種別：)

☒ ウ 放課後等デイサービス自己評価表

エ 児童発達支援自己評価表

オ 保育所訪問支援自己評価表

※種 別（記入例：就労継続支援B型）

3 自己評価の実施時期（自己評価結果をとりまとめた時期）

令和 7 年 3 月

4 県のホームページで、自己評価を実施した施設・事業所の名称、所在地、実施時期、事業所での評価結果の公表の有無を情報提供することについて

提供してもよい ・ 提供しないほしい

5 自己評価結果の公表の有無（該当するところを○で囲む）

- ①市町への送付 した ・ しない
②滋賀県健康福祉事務所への送付 した ・ ~~しない~~
③県庁障害福祉課への送付 した ・ ~~しない~~
④施設・事業所内での閲覧提供 した ・ しない
⑤インターネットのホームページ した ・ しない
⑥その他の方法での公表

（具体的に： ）

6 サービス改善計画の公表の有無（該当するところを○で囲み、括弧内に記入）

- ①市町への送付 した ・ しない
②滋賀県健康福祉事務所への送付 した ・ ~~しない~~
③県庁障害福祉課への送付 した ・ ~~しない~~
④施設・事業所内での閲覧提供 した ・ しない
⑤インターネットのホームページ した ・ しない
⑥その他の方法での公表

（具体的に： ）

7 自己評価を実施して感じたこと、評価基準・ガイドライン等への意見やサービス評価について今後望むこと

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ

公表日 2025年 4 月 25 日

利用児童数

33

回収数

28

		チェック項目	はい	どちらかといえば	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえに対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	20	5	2	1	体を動かせる活動が出来る、落ち着ける、切替えの出来る場所が必要だと思います。	2階や玄関前のガレージを、有効活用している。出来るだけ多く、公園遊びを取り入れるようにしている。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	23	4		1		基本的に、その日の利用者の顔ぶれや同僚性助の観点から、シフトを組むようにしている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20	4	3	1		バリアフリー化は十分ではないが、「障がい特性」に応じた室内の構造化や、写真・絵カードやマカトン法等を使った情報伝達に努めている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	22	4	1	1		こまめに、部屋の換気、トイレ・ドアノブ・テーブル等の消毒を行うように心掛けている。その日の利用者の状態によって、2階を使用している。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	23	3	1	1		外部研修には、積極的に参加するように努めている。内部研修では、各利用者に対する「障がい特性」の理解と、支援のスキルアップを図っている。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	21	4		3		モニタリングや、保護者との日常的な会話を通じて、保護者との共通理解に努めている。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	23	3	1			毎日午前中に実施しているミーティング（昨日の支援の振り返り等）や、モニタリングの結果等を踏まえて、常に、利用者と保護者のニーズと課題が、児発管を中心に点検・分析されている。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	23	2	1	2		日々の療育に於ける、各利用者の様子や、ご家庭や学校からの情報収集、内部のケースカンファレンス、モニタリング等を通して、支援内容を適宜検討している。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22	5		1		朝と昼のミーティング（パート職員を含む）に於いて、その日特に配慮を要する利用者について、「個別支援計画」のポイントを、職員間で共通理解・認識するように意識している。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	20	5	2			毎月に於ける日々の活動プログラムは、年間計画を組み、計画的に固定化することに意図がある。取り分け、土・日曜日は職場応急に工作や外出等の機会を設けている。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	5	6	7	10		周辺地域の行事には出来るだけ参加をして、地域の児童達と触れ合う機会をつくることを意識している。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	25	2		1		それぞれの保護者に、よく理解をして頂く為に、保護者の人となり即した説明が出来るように心掛けている。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	26	1	1			常に、原則に徹している。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5	7	6	9		今後の課題として、認識している。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	21	5	2			登所時の身体上の異変（熱・アザ等）や、療育中目に留まった利用者の様子（良い表情等）を、保護者に対して、SNS（写真等）によって、リアルタイムで正確に伝え共通理解を図っている。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20	6		2		その機会としても、モニタリングを滞りなく実施している。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22	5		1		保護者と接する全ての機会（送迎時・面談・電話・SNS等）でのマナー及び、利用者や保護者の困りごと・生きづらさを、十分に認識した言動が取れているか、日常的で組織的な事後を推進していく。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	5	10	11		本項目の意義は、一般論としてはよく理解出来るが、家族支援は、まずは個別性に比重を置きたいので、保護者同士の交流や兄弟同士の交流の機会の設定には、現実的に実現の困難さも感じているのが実情である。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	22	2	2	1	利用者やご家族からの相談や申入れについては、その情報を管理職に迅速且つ正確に集中し、その対応を速やかに行うよう職員間で共通理解している。しかし、対応の体制や周知については、広報不足なので改善したい。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	23	4	1		利用者に対して、一人ひとりの「障がい特性」に応じたコミュニケーションを、更に図っていききたい。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	14	3	3	7	引き続き、個人情報と人権に十分配慮した発信に努めていきたい。保護者に対しては、SNSをもっと有効に活用していききたい。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	24	3		1	個人情報の取扱いと管理には、十分留意しているが、職員同士の業務上のSNS発信に於いて、利用者をはじめご家族の個人情報が漏洩しないよう、常にその注意を怠らないようにしている。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13	2	3	10	マニュアルはあっても、実施出来ていない訓練もあるので、新年度は実施していきたい。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	2	2	14	定期的には訓練が実施出来ていないので、年間計画に沿って、予定通り実施していきたい。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	15	5	2	6	利用者のご家族に対する、広報不足を是正したい。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19	3	1	5	非常時対応のマニュアルに沿って、保護者への迅速な報告に努めている。傷（怪我）の写真を、保護者にリアルタイムで送信し、正確な情報をお伝えする場合もある。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	27	1			職員（パート職員を含む）は、どんな利用者も呼び捨てにしたり、大声や威圧的な態度で接しないように、組織的に留意している。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	23	4		1	組織的に、各利用者が通所を楽しみに出来るように、各利用者に応じた情報提供（見直し）や、各利用者がそれぞれに、日々の居場所を実感出来るコミュニケーションづくりに努めている。
	29	事業所の支援に満足していますか。	25	2	1		まずもって、各保護者から信頼を得る基本的な保護者対応として、職員個々の送迎時の言動・連絡帳への文章表現・写真（療育中の様子）を送信する目的やアングル等を、組織的に点検している。

障害福祉サービス共通評価基準 概評 [各シート共通]

○概 評

①非該当とした項目（放課後等デイサービス、児童発達支援、保育所等訪問支援については「いいえ」とした項目）の説明、②独自に必要なと思われる評価項目等、③項目評価を通じて気づいた点などを記入してください。
【放課後等デイサービスに対する保護者からの事業所評価】
「環境・体制整備」の項目、「こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。」
の質問に於いては、約28%（「いいえ」2名・「どちらともいえない」5名・「わからない」1名）の保護
者の方々が納得をされていないと言える。職員の配置数については、概ね理解をされているが、生活空間
の構造化やバリアフリー化・情報伝達等への配慮に関しても、約28%の保護者の方々から理解を得ること
が出来ていない。
「適切な支援の提供」の項目では、「放課後等デイサービス計画に沿った支援」と「活動プログラムが
固定化されないよう工夫」がなされているかについて、「どちらともいえない」の回答が少なくない。ま
た、「放課後児童クラブや児童館との交流、地域の他のこどもと活動する機会」に関しては、約80%の保
護者の方々が否定的な評価をされている。
「保護者への説明等」の項目に於いては、「家族に対する支援プログラム（ペアレントトレーニング）
や、家族等も参加出来る研修会や情報提供の機会等」について、約80%（「わからない」9名を含む）の
保護者の方々から納得を得られていない。「父母の会の活動支援や保護者会の開催、保護者同士の交流の
機会、兄弟同士の交流の機会や兄弟への支援」に対しては、ほとんどと言っても良い保護者の方々が否定
的に捉えておられる。「定期的に通信やホームページ・SNS等での活動概要や行事予定、自己評価の結果等
々の発信」については、「いいえ」3名・「わからない」7名だった。
「非常時等の対応」の項目では、「非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行
われているか」という問いに対して、14名の保護者の方々が「わからない」と答えておられる。
「満足度」の項目に於いては、「こどもは安心感をもって通所しているか」「こどもは通所を楽しみに
しているか」「事業所の支援に満足しているか」に対して、ほとんどの保護者の方々から肯定的な評価を
頂いた。
以上の項目評価を通じて、活動スペースの確保や生活空間の構造化については、引き続きそれらの改善
に努めたいと考える。しかし、職員配置数やバリアフリー化の改善には、現実的な難しさを感じる。「適切な支援の提
供」の各項目では、更なる保護者との日常的なコミュニケーション及び、信頼関係の深化を図っていききたい。放課後
児童クラブ等との交流については、毎年の懸案事項のままだが、それを「活動プログラム」に加えることには現実的
な余裕の無さを感じる。「保護者への説明等」に関しては、本来の放課後等デイサービスの役割たる保護者支援の
視座から、利用者が抱える「困りごと」「生きづらさ」に対して、保護者と情報・意見交換を進めつつ、利用者の成長課
題を共感的に共有出来る支援を追求していきたい。「非常時等の対応」については、広報不足を感じるので、ホーム
ページ・SNS等での情報提供を強めていきたいと考えている。

○サービスの質の向上に向けて取り組む課題

前回までの評価において、サービスの質の向上に向け取り組む課題を設定している場合はその内容と進捗状況を、また、新たに今回の評価によって今後取り組むべき課題がある場合も、その内容を記入してください。

[illegible]

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ		2025 年 4 月 25 日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	1		
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	1		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	3		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4			
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	1		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	2		外部評価が、業務改善に具体的にどのように繋がったか否かの事後評価が求められるが、第三者による外部評価の機会自体を、もっとつくっていく必要がある。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	1		
適切な支援	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4			
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4			
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4			
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	1		
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	1		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	1		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	2	公休や、既に帰宅した職員もいるので、重大な内容や緊急を要する事項は、個人情報に十分配慮した上で、その日の内にSNSを利用している。	翌朝のミーティングでは、前日の支援の振り返りや気付きについて、何を大切に共有すべきか、全体で確認することを徹底する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	1		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3	1		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	3		移行先からの要請が無くて、弊所の方から、情報提供を行っていくことも検討したい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	2		助言や研修を受ける機会を、更につくっていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		4	周辺地域の行事（夏祭り等）には、出来るだけ参加をするようにしている。	学校の長期休業期間に於ける、放課後児童クラブ等との交流を検討したい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	1		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	3		本来は、放課後等デイサービスとして取り組みなければならない課題なので、どういった形が現実的に可能なか検討したい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		4		取組みの理念は、大いに理解したいが、現実的な必要性や実現性について、職員間で十分議論する必要がある。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3	1		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を図っているか。	1	3		夏祭りやクリスマス会に、まずは「向こう三軒両隣」から、或いは、町内会の役員諸氏から、招待することを検討したい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	2		各マニュアルの、更なる広報・周知に努めたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	1	3		必要な諸訓練を、年間計画どおり実施するように、その実施時期を守っていきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	2		家族等への周知が足りないことを反省し、その改善に向けた具体策を検討したい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3	1		

障害福祉サービス共通評価基準 概評 [各シート共通]

○概 評

①非該当とした項目（放課後等デイサービス、児童発達支援、保育所等訪問支援については「いいえ」とした項目）の説明、②独自に必要なと思われる評価項目等、③項目評価を通じて気づいた点などを記入してください。
【放課後等デイサービスに対する事業所に於ける自己評価】
「環境・体制整備」の項目に関しては、日々の生活空間が利用者にとって分かり易く構造化された環境になっているか、弊所の設備等が、「障がい特性」に応じてバリアフリー化や情報伝達等の環境上の配慮が適切になされているかについて、それらは毎年の重要課題として認識せざるを得ない。バリアフリー化は、速やかな実現性という意味に於いては予算上の現実的な限界もある。一方、年長児から高校生までの異年齢で、しかも、様々な「障がい特性」のある利用者が一堂に会する生活空間の構造化・情報伝達の環境的改善に向けて、より努力をしていきたい。其々の職員が、利用者一人ひとりに対する「障がい理解」「障がい特性」の理解と認識を深めていく自己研鑽を積み、同時に、適宜ケースカンファレンスや内部研修（「自閉スペクトラム症への理解」等々）を通じて、職員個々の資質向上と、援助者集団としての組織力の向上を図っていきたい。
「業務改善」の項目では、「第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。」について、職員の評価が二分した。この項目自体についての共通理解を、職員間で進めていく必要がある。
「適切な支援の提供」の項目の中で、支援終了後の職員間での打合せや振り返りについて、職員の評価が二つに割れた。利用者に関する情報共有の中身とそのあり方について、職員間で再認識する必要がある。
「関係機関や保護者との連携」の項目、「放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。」については、職員全員が「いいえ」である。日常の「活動プログラム」に於いて、放課後児童クラブ等々との交流には現実的な余裕の無さを感じるが、学校の夏休み等の実施に向けて一度検討する必要性も感じる。利用者が高校を卒業し、弊所から障がい福祉サービス事業所等に移行する際、その利用者の「障がい特性」や支援内容等の情報を進路先に提供出来ていない。先方から、情報提供の依頼や、ケース会議への招聘があれば積極的に応じるが、いずれにせよ、相手次第の現状にあると言わざるを得ない。「保護者への説明等」の項目では、保護者会等の開催や、保護者同士の交流の機会、兄弟同士の交流の機会を設定する等の支援をしているかの問いだが、弊所では出来ていない。理念としての重要性は認識しているつもりだが、毎年の懸案事項に留まったままである。
「非常時等の対応」の項目では、事故防止マニュアル・緊急時対応マニュアル・防犯マニュアル・感染症対応マニュアル等の内容の、全職員やご家族に対する周知徹底が不十分である。特に、ご家族には各訓練の事後報告をより丁寧に行うよう努めたい。また、各利用者の「障がい特性」に配慮した訓練のありようを検討していきたい。

○サービスの質の向上に向けて取り組む課題

前回までの評価において、サービスの質の向上に向け取り組む課題を設定している場合はその内容と進捗状況を、また、新たに今回の評価によって今後取り組むべき課題がある場合も、その内容を記入してください。

関連する項目	内容および進捗状況	新規 継続 終了	取り組みの期間 (○年○月から○年○月まで)
日課の見直しと再編	より豊かな放課後の提供と、支援サービスの質的向上に向けて、これまでの取り組みの内容を見直し、より魅力的な事業所を目指していく。	終了	2024年4月1日～2025年3月31日
人権意識の向上	利用者一人一人に対する「障がい」「障がい特性」への理解と認識力、その支援の質は、全職員の人権意識の程度によって決することを、組織全体として認識出来るように努める。	新規	2025年4月1日～2026年3月31日
職員同士の連携	「報・連・相」の重要性を、パート職員を含む全職員が自覚し、「報・連・相」の不足が支援(利用者)に及ぼす弊害を、全職員が認識出来る為の組織環境を築いている。	継続	2025年4月1日～2026年3月31日
関係諸機関との連携	利用者個々の、「最善の利益」を軸とし最優先とした、関係諸機関との信頼関係を築きつつ、連携を図っている。	継続	2025年4月1日～2026年3月31日

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 19日		～	2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数)	28
○従業者評価実施期間	2025年 2月 19日		～	2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	入所を希望されるご家庭に対して、障がいの種別や程度に関係なく、社会資源としての社会的なニーズに応えられるように、最大限努めている。	利用者の入所に先立って、保育所等に見学に行くようにしている。実際の保育や食事場面を観察したり、入所予定児童の担任等から、その児童の保育課題や家庭環境等の情報を、出来るだけ多く収集している。保育所等の見学は、それらの情報をより客観的で正確に得る為、児発管を中心に複数で参加するようにしている。	就学児童が入所する場合は、放課後児童クラブへの見学や学校の担任からの情報収集に、より努めていきたい。また、重度心身障がい児や、強度行動障がいのある利用者の精神的な居場所を保障する為に、「障がい特性」に対する内部研修の充実や、外部研修への積極的な参加を更に図ってきたい。
2	より質の高い支援を目指す為の、新たな取組み及び、「活動プログラム」に対する課題の気付き、日常業務全般に亘る問題点等を、誰しもが発議・提案し易い職場環境にある。	朝のミーティングの時間に於いて、昨日の療育に関する振り返りだけではなく、職員個々が、日頃の業務全般に亘る疑問・迷い・悩み等が述べ易い雰囲気づくりが、管理職によってなされている。また、ミーティング以外の場でも、職員同士のコミュニケーションを図ることの大切さを自覚するように、職員一人ひとりが努めている。	管理職による、定期的(前期・中期・後期)な職員(パート職員を含む)に対するヒアリングの充実によって、療育集団・チームプレーとしての組織力の向上を推し進めていきたい。
3	児童発達支援管理責任者を、女性職員が務めている。	人権と多様性が尊重されるべき現代社会にあって、「ジェンダー平等」は、放デイの業界に於いても追求されなければならぬ重要なテーマである。女性利用者に対する同性介助は進んで来てはいるものの、女性利用者は、「女性差別」と「障がい者差別」の「複合差別」を被っているのが現実である。児発管が、そのことを全職員に対して適宜発信している。	自閉スペクトラム症に於ける「障がい特性」には、母親の嫉の問題とされる社会的偏見がはびこっている。また、障がいのある児童を育てる母親は、ジェンダーの下で、育児の負担に苛まれている。児発管を、男性が担う良さもあるが、女性の児発管は、女性・母親・妻の立場に共感し尊重し得る、保護者(母親)支援を試行錯誤している。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員(パート職員を含む)全体で、常日頃意識しているはずの「報・連・相」が、まだ不十分・不徹底である。	「報・連・相」の意義と重要性、必要性に対する職員個々の問題意識に、少なからず差がある。そして、様々なケースの個別事象に於いて、「報・連・相」が不足または機能していない場合の、気付きとリスクマネジメント意識にもそれが言える。	組織風土として、「報・連・相」の徹底が根付く職場環境づくりに、管理職だけではなく、全ての職員が日常的に意識をし努力をしていく。「報・連・相」が十分に機能しなかったことにより、利用者や保護者が被った不利益の中身を、その都度認識・共有出来るディスカッションを行い、内部研修を定期的に実施する。
2			
3			

サービス改善計画書

策定日： #####

事業・サービス名： 放課後等デイサービス

施設・事業所名： ハイタッチ

自己評価項目	評価結果	問題点・課題	改善内容と目標	時期と期間	責任者	備考 (必要な予算等)
業務改善	継続	業務上の疑義・迷い・悩み等を打ち明け易い、通り甲斐・働き甲斐のある職場環境づくり	職員が、相互の長所を認め合う職場の風土づくり/ヒヤリングを定例的に推進	2025年4月1日～2026年3月31日	富元	
業務改善	継続	職員の資質向上	職員の人権意識・感覚の向上に向けた内部研修の推進/定期的に「保護者向け評価表」に基づく日常的業務の振り返り	2025年4月1日～2026年3月31日	富元	
適切な支援の提供	継続	職員の専門性の向上	各利用者の「障がい」「障がい特性」に対する理解と認識を深める/全職員が「個別支援計画」への理解と認識を深める	2025年4月1日～2026年3月31日	岩瀬	
関係機関や保護者との連携	継続	関係機関との連携を推進・強化	各利用者の個別性に基づく「最善の利益」を追求する連携/保護者との信頼関係をより深める	2025年4月1日～2026年3月31日	岩瀬	
環境・体制整備	継続	環境整備	室内の破損や危険箇所・修理を要する遊具や玩具の日常的点検の推進	2025年4月1日～2026年3月31日	池本	
非常時等の対応	継続	B C P の応用	職員間での共有をより図る/弊所の実情に即した訓練の実施	2025年4月1日～2026年3月31日	池本	
非常時等の対応	継続	利用者と保護者への周知と理解	各訓練の実施内容を事前・事後に周知して各マニュアルに対する理解と評価を得る	2025年4月1日～2026年3月31日	岡崎	
非常時等の対応	継続	日常的健康・衛生管理の徹底	感染症や食物アレルギーの予防と対応への、更なる知識と実践力の習得に向けた定期的なミーティングや内部研修の実施	2025年4月1日～2026年3月31日	岡崎	